

鰯ヶ沢町義務教育学校設立推進計画（案）

令和8年3月

鰯ヶ沢町教育委員会

1 一貫教育導入検討の背景

小中一貫教育が求められている背景として、この数十年で児童生徒の心身の発達が早まっており、現行の学年区分とずれが生じてきていること。そして、小学校から中学校へ進学する際の環境の変化や不安などから、不登校など生徒指導上の困難な状況に発展するいわゆる「中1 ギャップ」の問題があることなどが挙げられる。鰯ヶ沢町においても、中学校進学に伴う不安等を抱えている児童や進学後に不登校になる生徒も少なくない。

また、小学校へ英語教育の導入や小学校高学年における教科担任制の導入など、学習内容の高度化や専門化が進んでいることなど、急激な教育体制の変化も検討を要する背景となっている。

さらには、GIGA スクール構想の推進の中、ICT 機器活用をとおして情報活用能力の育成を目指してきたが、小学校におけるプログラミング学習が中学校の情報教育とより効果的に連携していくためには、小中の一貫教育を推進することで、ICT 機器活用能力の向上および情報活用能力の育成を図ることができるものと考えている。

このような理由から、児童生徒数の減少が進む中において、小中学校の適正な学校教育活動を目指すための新たな取り組みとして、現行のコミュニティ・スクールを基盤に、新たに小中一貫教育を導入し義務教育学校を設立することが有効であると考ええる。

2 小中一貫教育（義務教育学校）の目的

- (1) 9年間を見通したカリキュラムの編成により、児童生徒の学力向上を目指す。
- (2) 小学校から中学校への接続を円滑にし、中1 ギャップや不登校などの生徒指導上の課題を解消する。
- (3) コミュニティ・スクールと連動して、地域との関りを深め、将来の鰯ヶ沢町を支える人づくりに資する。
- (4) 異年齢集団による教育活動の実施により、多様性の理解や思いやりの心を育て、社会性豊かな児童生徒を育てる。
- (5) 新設教科の導入により、ICT 機器活用スキルの向上と情報活用能力の向上を目指す。

3 学校教育の方針

「ふるさとに愛着と誇りをもち、未来を展望する人財の育成」

4 目指す子供の姿 「気づき、考え、行動する」(校訓)

- (1) ふるさとに愛着と誇りをもち、未来を展望する子供
- (2) 夢や希望、志を持ち、なりたい自分に向かって努力する子供
- (3) 多様性を理解し、他者と協力して、主体的に課題解決に取り組む子供
- (4) 創造力豊かで、新たな価値を創り出す子供
- (5) ICT 機器を自在に使いこなし、生活を豊かにする子供

5 9年間でつきたい力

- (1) 思考力：自ら気づき、考え、判断し、解決する力
- (2) 創造力：柔軟な発想、個性の伸長、新たな価値の創出
- (3) 共生力：多様性の尊重、思いやり、協力
- (4) 挑戦力：目標をもつ、粘り強さ、前向き
- (5) デジタル・シチズンシップ：情報活用、デジタル活用、ネットモラル

6 目指す教育活動と学校像 【別紙 1】

(1) 6－3制に4－3－2制のよさを取り入れた教育活動の推進

①【基礎定着期 小学 1年～4年】

学級担任制を基本にして、体験を通した具体的な学びから半具体的思考を経て、抽象的思考へと成長させる。3年生から一部教科担任制を取り入れていく。

②【充実期 小学 5年～中学 1年】

複数担任制を基本に、5、6年生は教科担任制を取り入れ、7年生につなげる論理的思考を伴う学びを進める。

③【発展期 中学 2～3年】

複数担任制と教科担任制を取り入れ、学校のリーダーとしての主体性や探究的な学びを進める

(2) 「地域とともにある学校づくり」を目指すコミュニティ・スクールの推進

①社会に開かれた教育課程の実現のため、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な運営を進める。

②地域人材及び地域資源を十分活用し、学校と地域の交流を活発にしていく。

(3) 9年間の計画的な「ふるさと学習」推進する

①「自然・環境」「歴史・文化」「産業・経済」「自分の将来」の4領域を柱に、ふるさとに愛着と誇りを持たせる学習を進める。

②町で働く大人と触れ合うことで、自分の生き方や将来を考える機会となるように仕組む。

(4) 情報活用能力の育成を目指す「コンピュータ情報科」新設する

①9年間の系統的な学習をとおして、ICT 機器活用のスキル向上と情報活用能力の育成を図る。

②デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関わり参加しようとする「デジタル・シチズンシップ」を育成する。

7 目指す義務教育学校校舎

- (1) 地域の交流の場としての校舎 → 地域の人が集う場所（教室）、学校ボランティアの事務所
- (2) 図書発達の基地 → 町図書館を兼ねた学校図書館の設置
- (3) 放課後の居場所 → 放課後児童クラブ併設
- (4) 給食センター併設 → 子ども食堂の実施
- (5) 地域防災の役割 → 避難所、防災備蓄倉庫の設置

8 今後のスケジュール 【別紙2】

※R8.3/27現在(予定)

- (1) 舞戸小学校と西海小学校を統合して、西海小学校校舎を使用する。
- (2) 新しい義務教育学校の校名と校章及び校歌を制定し、それを使用する。
- (3) 中学校統合までは、施設分離型小中一貫校とする。
- (4) 舞戸小学校校舎を増改築し、義務教育学校校舎を建設する。
- (5) 校舎完成後、中学校も統合して鰯ヶ沢町立の義務教育学校を創立する。
- (6) 現鰯ヶ沢中学校と現西海小学校の校舎については、舞戸小学校増改築終了（義務教育学校完成）まで、老朽化に対するの安全管理をしていく。

鰯ヶ沢町義務教育学校推進計画(概要)

学校教育の方針

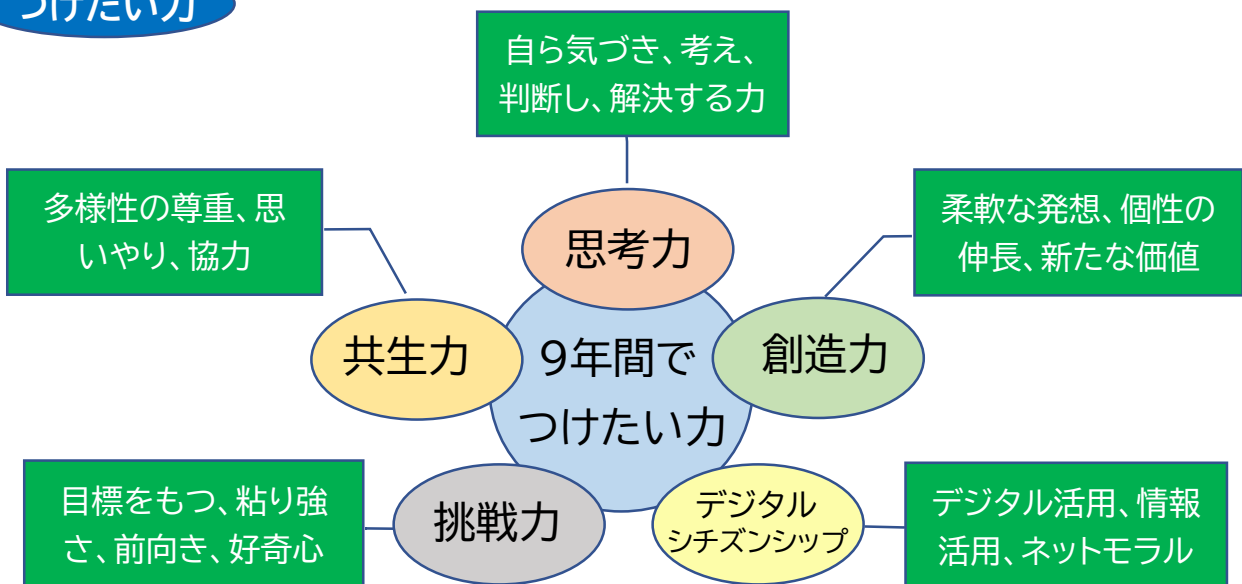
「ふるさとに愛着と誇りをもち、未来を展望する人財の育成」

めざす子どもの姿

「気づき、考え、行動する」児童生徒

- 1 ふるさとに愛着と誇りをもち、未来を展望する子供 【思考力】
- 2 夢や希望、志を持ち、なりたい自分に向かって努力する子供 【挑戦力】
- 3 多様性を理解し、他者と協力して、主体的に課題解決に取り組む子供 【共生力】
- 4 創造力豊かで、新たな価値を創り出す子供 【創造力】
- 5 ICT 機器を自在に使いこなし、生活を豊かにする子供 【デジタルシチズンシップ】

つきたい力



めざす学校の姿

- 1 6－3制に4－3－2制の良さを取り入れた教育活動の推進
・教科担任制(指導の専門性)と複数担任制(指導の多様性)
- 2 「地域とともにある学校づくり」をめざすコミュニティ・スクールの推進
・地域学校協働活動の一体的推進 ・地域人材の活用
- 3 9年間の計画的な「ふるさと学習」の推進
・「自然・環境」「歴史・文化」「産業・経済」「将来の自分」 ・地元産業のキャリア教育
- 4 「コンピュータ情報科」(新設)による、デジタルシチズンシップ教育の推進
・9年間の系統的な学習 ・情報活用能力の育成とデジタルスキルの向上

【別紙 1】

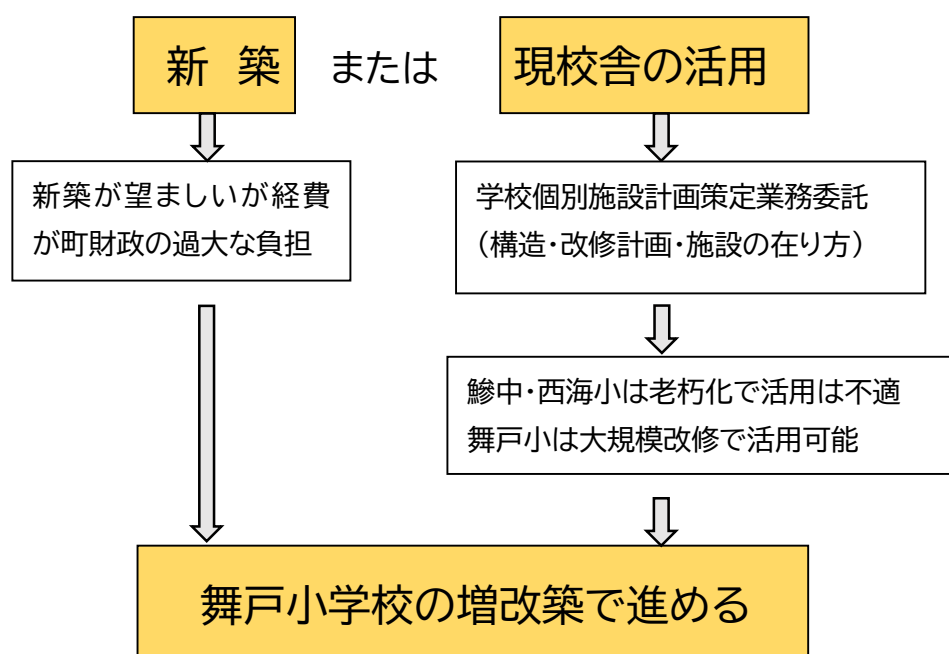
鰯ヶ沢町立義務教育学校イメージ図(小中一貫教育)

義務教育学校										基本理念 ふるさと鰯ヶ沢を支える人づくり	
保育園・こども園											
基礎定着期（4年） 充実期（3年） 発展期（2年）											
期 間	2年		2年		3年			2年			
	保小の架け橋 スタートカリキュラム 小1プロブレムの解消		新たなギャップが 生じないように留意		小・中連携の円滑な接続 中1ギャップの解消			学校不適應になら ないように留意			
学びの段階	基礎・基本の習得				既習内容の活用			探究的な学び			
	体験を通じた 具体的な学び		客観的・抽象的 思考を伴う学び		論理的思考を伴う学び			主体的な価値追 及の学び			
指導体制	学級担任制				複数担任制						
	学級集団の形成や 学習の基礎的指導				一部教科担任制 専門性のある教科指 導（学校内交換、乗り入れ等）			教科担任制 高い専門性のある教科指導			
教職員の資質・能力・得意分野に応じた配置											
ふるさと教育											
1 自然・環境 ①世界自然遺産白神山地 2 歴史・文化 ②日本遺産北前船文化 ③津軽藩発祥の地 3 産業・経済 ④町の営み（観光、魚の増養殖、りんご、アスパラ 他） 4 自分の将来 ⑤なりたい自分（キャリア教育） 5 その他 各教科との関連で学習											
新設教科	コンピュータ情報科 情報活用能力を育成し、デジタル社会を主体的に生きていく知識・技能の習得をとおして、<u>デジタルシチズンシップ</u>を高めていく。（学習領域） A コンピュータを活用した問題解決 B 情報技術の仕組み C 情報社会とのかかわり										


基盤：「地域とともにある学校」 コミュニティ・スクール

※デジタルシチズンシップ（総務省）
デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し参加する能力のこと。

これまでの経緯



今後の計画(スケジュール)案

※R8.3/27現在(予定)

